市『バスは大事な生活路線』

会社『経営合理化のために』

市としては、このバス路線の問題をいろんな面から検討するため関係課長、出張所長の合同会議を開き対策を協議しました。そして、地域の実情からバスは掛けがえのない〝生活路線〟であることを認識し、路線ごとに運行廃止の撤回、継続などを求めて会社側と交渉しました。

会社側からは、「今回の計画は下越全域と佐渡を含めた大幅なもので、他市町村でも廃止路線は多数ある。マイカーの普及、列車の増発、それに泰平橋の渋滞などで乗客が減っている。合理化を進め企業努力はしているが、現状通りの営業は困難である。

企業としてはやむを得ない措置であることを理解して欲しい。佐々木、上大口間は並行して走っている国鉄を利用して頂きたい。岡方、新潟間は、早通駅を経由し葛塚へ乗り入れた方が、利用者にとっても好都合だと思う。朝晩のラッシュ時だけの運行はできない。実施は来年四月一日を目途としており、関係官庁へ申請してから実施まで二、三か月くらいかかる」といった事情が説明されました。

交渉は平行線のまま終始しましたが、市では今後とも会社側に要望していく意向です。

利用者の声・住民の声

わたしらは反対です

山田シタミさん
（中黒山・47歳）

家の前をバスが通らなくなると聞いた時は、「まさかっ」と思いました。何十年間も続いてきたのを無くするなんて反対です。十二年間バスで新崎の鉄工団地へ通っていますが、同じような女の人がこの地区に十人程いるんです。乗り降りの駅が遠くて勤めを辞める人も出るかも知れませんね。深刻な問題です……。

朝晩のバスは結構人が乗っているんですよ。特に冬の間や雨降りの日なんか高校生や中学生で満員です。葛塚のそろばん塾へバスで通ってる小学生も大勢いますが、夜道自転車に乗って交通事故にでも遭ったらそれこそ大変です。葛塚市（いち）になると両手に買い物袋を持ったお年寄りも乗り降りしています。弱い者にばっかりシワ寄せするのはご免です。昔、バスが通るということで、先祖伝来の宅地を削って道幅を広げたんだそうですが…。

利用者を考えた対策を

小林　章さん
（高森新田・53歳）

岡方地区は、新潟市に近いため昔から通勤、通学、買い物、通院などあらゆる点で、新潟と密接な関係にあるんです。また、鉄道もないのでバス路線は、命綱のようなもんです。私も二十数年間、バスを頼りに新潟市の終点まで通っています。利用者の中には山木戸周辺の会社に勤めている人も大勢います。転職したり、下宿する女性なども出て、バス離れに拍車をかけるんじゃないですか。

バスは公共性のある企業ですから、地域住民の意見も十分聞くべきですね。また、行政側も市民サービスの後退にならないよう対策を講じて欲しいと思います。

通学はずっと便利に

野沢　佳代さん
（早通南２・16歳）

豊栄高校へ通っています。バドミントン部で帰りが遅いため今はバス通学です。朝夕のバスは、豊高の生徒がほとんどですね。豊栄駅から学校までは歩くと二十分くらいかかるんですが、北団地の生徒はバス停留所が遠いので、早通駅から列車通学してる人が大分います。団地の中をバスが通ると便利になっていいなあと思います。まちらしい感じも出てくるし。

できたぞ 手づくり集会場

村新田の若妻会も大喜び

戸数十二戸の村新田自治会に、住民たちの手によるミニ集会場ができました。この集会場は、八畳間が二つと勝手場などが付いたプレハブ造りで、面積は約三十七平方メートルです。

ことの発端は、若い嫁さんたちでつくっている若妻会が踊りの練習をしたり、集まって話をする時会員の家を回り番にして使っているが気兼ねや遠慮がいるといったことからです。自治会としても、上黒山一区、二区、三区、と村新田の四自治会共同の公民館が上黒山地内にあるため、なにかと不便を感じていました。そこでこの際自分たち独自の憩の場を、自分たちの手でつくろうということになったものです。

工事は稲刈りの終わった九月の末から取りかかり、基礎、大工、塗装などは経験や技術のある人が労力奉仕をかってでました。また、材木、サッシ戸、畳などの材料も、中古品をもらってきたり、持ち寄ったりしました。自分たちのできない部分は業者に委託し、総工事費は四十二万円であがりました。

昔？の若妻会も寄り合いに利用

集会場の名称は、八幡神社の境内に建てられたことから「八幡荘」と付けられました。

笹川厚治自治会長は「よその人が見るとお粗末に見えるでしょうが、市からの補助も当てにしないで、みんなが力を合わせてつくったのが何よりの誇りです。これからは、カラオケでもなんでも気兼ねなしに使えるでしょう」と笑顔で語ってくれました。

フランスの青年が剣道の特訓

毎週新潟から豊栄へ

川西三丁目にある武道館では、毎週大勢の子供たちが剣道の練習をしていますが、中に長身の外人が一人目に付きます。

この人は、石油開発の技術研修生としてフランスから日本に派遣されたキャザ・グランドさん（二六歳）で、今年四月から新潟市に滞在しています。キャザさんは、来年の二月まで日本にいる予定ですが、期間中仕事の外にも何かを習いたいということから剣道を始めました。そして、新潟市内の道場で練習していた際、豊栄剣道連盟の江村兵平さん（大久保・三三歳）と知り合いました。もっと練習をしたいというキャザさんの希望で、八月から毎週一回夜、汽車で豊栄の武道館へ通っています。普通の人の倍以上のけい古のかいあって先月見事に初段位を獲得しました。

キャザさんは「ニッポンのサムライは知っていた。でもケンドウは全然知らなかった。ニッポンのデントウブンカを覚えて帰りたい」と息を弾ませながらカタコトの日本語で話してくれました。

なお、先月新発田市で行われた第十六回三市二郡剣道大会の小学三・四年の部で豊栄剣道連盟の一チームが優勝の栄誉を勝ちとりました。子供たちを中心にした剣道の練習は、日曜日の朝と月曜日、水曜日の夜武道館で行われています。

正座して順番を待つ青い目の剣士